平成 28 年度　ＦＤ活動報告

工学域

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

・　工学域教育運営委員が主体となり、工学域全体のFD活動を実施している。

・　各課程では、さらに、授業アンケート、オフィスアワーの設定、ピア授業参観、実験・講義科目別の情報交換会、教育会議などを定期的に実施し、学習成果についての自己点検・評価と、教育の質の改善・向上に関する取り組みを個別に実施している。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	６	１２	電気電子システム課程では、年度当初に計画を立て、年度末にその結果を報告している。
後期	４	５	
年度合計	１０	１７	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
3 月 2 日	工学研究科・工学域全体 FD 会議：各課程のアクティブ・ラーニングの取り組み報告	報告会	19 名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
工学域教育運営委員会	工学域全体の FD 活動の企画、実施および情報交換	10 回	20 名
電気電子システム教育改革会議・教育委員会	課程内の情報の共有、様々な課題の審議、新しい教育の試みなどの企画	11 回	17 名
数学系 FD 会議 (理学・機構共同)	各学期の GPA を基に授業の進め方、成績評価の仕方、試験内容などを協議	2 回	23 名
電子物理 FD 会議	教室会議の中で実施	2 回	29 名
応用化学 FD 会議	演習科目関連会議：2 回、学生実験科目関連会議：4 回、教室会議：2 回	8 回	28 名
化学工学 FD 会議	教室会議の中で実施	12 回	14 名
マテリアル FD 会議	教室会議や実験担当者会議の中で授業内容について協議	3 回	17 名
航空宇宙 FD 会議	教室会議の中で実施	回	14 名
海洋システム FD 会議	AO 入試、海洋システム工学総合演習、「未来の海パイオニア育成プロジェクト」などに関する報告・検討	10 回	13 名
海洋システム外部評価	27 年度外部評価委員会アンケートに関	1 回	20 名

委員会	する回答の確認、28年度教育活動報告、今後の教育改善（PDCA）計画		
機械工学教育点検・学生生活指導委員会	学生の履修状況および成績の情報共有とその対応策について検討	11回	28名
機械工学実験WG会議	実験科目における学生の履修状況について情報共有	6回	28名

５　その他取り組みの具体的実施状況

・全課程において、FDに関する講演会などを聴講し、課程内のFD活動に役立てている。
・電気電子システム課程および化学工学課程では、従来より継続して講義・演習の科目において独自の授業アンケートを実施し、講義および演習の授業改善を行っている。
・実験の優秀教員の選出および表彰（電気電子システム課程）：実験を担当した教員の中で特に、実験教材および実験内容を計画・実行した教員および長年実験を担当している教員を選出し表彰しモチベーションを向上させています。
・今年度から廃止された工学域2年次配当の「マテリアル工学基礎実験」の次年度単位未修得者向け授業内容（実験内容）を教室会議で検討した。

平成 28 年度　ＦＤ活動報告

工学研究科

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

・　工学研究科教育運営委員が主体となり、工学研究科全体のFD活動を実施している。
・　カリキュラムの改善例などに関する講演会を実施し、改善に関する情報共有を行うとともに、各分野でのFD活動に役立てている。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	3	3	
後期	1	1	
年度合計	4	4	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
3 月 2 日	工学研究科・工学域全体 FD 会議：各課程のアクティブ・ラーニングの取り組み報告	報告会	19 名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
工学研究科教育運営委員会	工学研究科全体の FD 活動の企画、実施および情報交換	10 回	20 名
海洋システム FD 会議	大学院入試	1 回	13 名
電気情報システム大学院入試委員会	入試問題および入試全般に関して検討	1 回	17 名
化学工学大学院入試委員会	適切な問題作成および作成問題の点検	1 回	14 名
マテリアル FD 会議	留学生限定科目「マテリアル工学特論」の具体的な授業内容の検討	1 回	15 名

５　その他取り組みの具体的実施状況

・全分野において、FD に関する講演会などを聴講し、分野内の FD 活動に役立てている。
・大学院の講義科目に関して前期・後期に独自の授業アンケートを実施。
　回答数：前期 2126 件（69 科目）後期 683 件（63 科目）
・化学工学分野においては、大学院前期課程学生の研究の進捗状態の確認を行うとともに、適切な指導を行うために、中間ポスター発表会等を開催した。
・量子放射線専攻の「量子放射線計測実習」は、文科省の人材育成事業を講義の一つに活用したものであり、年 2 回の運営委員会にて、テキストの改善などを議論している。
　また、「放射線の社会学」は座学ではなく、放射線研究センターの主催する知識普及活動

に参加し、正しい知識を伝えるという活動も行っている。

2017.3.31

平成 29 年度の工学域・工学研究科の FD 活動計画

(1)　工学域・工学研究科の教育運営委員会で FD 活動の推進、報告などを、より組織的に行う。
全学 FD（高等教育開発センター）との連携を図る（教育改革専門委員会）

(2)　工学域・工学研究科における独自のセミナーおよび講演会の企画及び実施する。
全学の FD 活動への参加を促進する。平成 29 年度はアクティブ・ラーニングに関する
独自の講演会の実施を検討する。

(3)　工学研究科独自の授業アンケートの見直しを検討する。

(4)　工学域および工学研究科におけるピア授業参観の参加者をさらに増加させ、授業改善を行う。

(5)　各課程・分野において FD 会議を開催する。
- 各課程および各分野における授業改善のための FD 活動を実施する。
- 講義科目間の講義内容およびカリキュラム構成等の調整および検討を行う。

(6)　大学院入試における適切な問題作成および作成問題の点検等に関して各分野の入試委員会で検討を行う。

(7)　大学院博士前期課程学生の研究の進捗状態の確認を行うとともに、適切な指導を行うために、中間発表会あるいはポスター発表会等の開催について検討する。

以上